

五能線と三陸鉄道に乗って一日本海と三陸を旅して

4月18日から20日まで、JR五能線と三陸鉄道に乗りました（緊急事態宣言が出されている都道府県の読者の皆さんには申し訳ありません）。切符は大人の休日倶楽部パス、料金は15,270円です。4日間、JR東日本管内の新幹線や特急が乗り放題です。

五能線は秋田駅から弘前駅まで、約4時間の旅です。途中、東能代駅と川部駅とで、進行方向が逆になります。五能線は国道101号線と並行して、日本海の海岸に沿って走ります。日本海側は海岸線が入り組んでなくてほぼ直線、海がよく見えます。砂浜も多く残っています。途中に北前船で栄えた深浦の漁業集落があります。トンネルも少ないです。五能線の沿線は、ブナ林の世界遺産で有名な白神山地の麓を通ります。電車は特別車両の“リゾートしらかみ”、車内に売店もあります。車内では、吉幾三による名所案内放送があります。途中、津軽三味線の生放送もあります。ビューポイントでは電車が停車します。景色の写真を撮ります。

三陸鉄道は、北リアス線（久慈駅⇄宮古駅）、旧JR山田線（宮古駅⇄釜石駅）、南リアス線（釜石駅⇄盛岡駅）に分かれています。今回は、北リアス線と旧JR山田線に乗りました。旧JR山田線は、東日本大震災の前までは、盛岡駅⇄宮古駅⇄釜石駅⇄花巻駅間を走っていました。津波で大きな被害を受けました。JR東日本は、鉄道の復旧をしないで廃線にして、BRT（バス）に切り替えることにしました。しかしこれに対して、岩手県や地元の自治体が猛反対。市民の運動もあって、JRが鉄道を復旧して、三陸鉄道に無償で譲渡することになりました。

三陸鉄道は、三陸自動車道と国道45号と並行して、太平洋の海岸に沿って走ります。三陸海岸はリアス式なので、湾が入り組んでいます。トンネルも多いです。また、岩手県と宮城県・福島県の海岸は、防潮堤によって繋がっています。防潮堤があるので、海や海岸が見えません。私は気仙沼市で漁港の防潮堤の建設の仕事をしていました。少し反省です。

三陸鉄道の沿線は、津波で大きな被害を受けました。北リアス線沿線では、宮古市の田老が大きな被害を受けました。明治大津波と昭和大津波で大きな被害を受けて、高さ10mのX型の防潮堤がありました。しかし、3・11でも大きな被害を受けました。防潮堤があったことによって、住民には津波に対する警戒心が逆に緩んでいたのかもしれません。旧JR山田線沿線では、山田町や大槌町が大きな被害を受けました。釜石市の鶴住居には、ラグビー・ワールドカップの競技場となった鶴住居復興スタジアムが見えます。釜石市にはかつて、ラグビー日本選手権7連覇の“北の鉄人”新日鉄釜石のチームがありました。今全国で、地震による津波による被害が想定されています。しかし、災害が無ければ、平時では政府は防潮堤の建設に対して、交付金を出さないのです。



【JR 五能線 千畳敷駅付近の海岸線（青森県深浦町）】



【三陸鉄道 田老駅付近の防潮堤—海が見えない（岩手県宮古市）】